

### 第1章 オリентと地中海世界 1 古代オリент世界

現在もっとも古い農耕がはじまったのは[1 ティグリス・ユーフラテス]の2つの川に挟まれたメソポタミア周辺であるといわれ、東部の[2 ジャルモ]遺跡などが有名である。これによる人口増などを背景に[3 シュメール]人が前2700年までにウル、ウルク、ラガシュなどの都市国家を建設した。ここでは[4 楔(くさび)形]文字が使用され、[5 太陰暦]による暦が作られ、七曜制・60進法など現在につながるものが生まれた。

かれらは前24世紀セム系の[6 アッカド]人に滅ぼされた。前2000年ころになるとアムル人たちが[7 バビロン第一]王朝を建てた。前18世紀の[8 ハンムラビ]王は[9 メソポタミア統一]に成功した。彼が法治主義による中央集権体制をとったことは[10 ハンムラビ]法典を制定したことから知ることができる。この法典の特徴は「目には目を」という[11 復讐(しゅう)]法の考え方と[12 身分による差別]の考え方である。

この国は小アジアに建国された[13 ヒッタイト]に滅ぼされた。その背景には彼らが[14 鉄製]武器を持っていたことが重要である。その後、南メソポタミアには[15 カッシート]人が侵入、北部からシリアには[16 ミタンニ]王国ができるなど混乱状態がつづく。

#### e.エジプトの統一国家 (教28~29 図8/9)

エジプト文明は「エジプトは[17 ナイルのたまもの]」とよばれるようにナイル川に多くを依存していた。このため、エジプトでは洪水の予測・利用のため[18 太陽]暦が用いられた。

はやくからエジプト各地に[19 ノモス]とよばれる村落(部族国家)が成立、それはしだいに統合され前[20 3000]年頃には統一国家が成立する。

古王国(第1~第10王朝 前28世紀~前2050)は首都を[21 メンフィス]におき、王=[22 ファラオ]は神そのものとされた。この権力は巨大な[23 ピラミッド]やスフィンクスに象徴される。またミイラ信仰がおこなわれ、[24 神聖]文字=ヒエログリフをもちいて[25 『死者の書』]などもかかれた。なおこの文字はフランスの[26 シャンポリオン]によって解読された。

首都を[27 テーベ]に移した中王国(第11~17王朝 前2050~前1570)の後半には西アジアの遊牧民[28 ヒクソス]人が侵入、15~17王朝をたてた。ヒクソス人を撃退して成立した新王国(第18~26王朝 前1570~前525 首都テーベ)は、余勢をかって[29 シリア]方面に進出、小アジアの[30 ヒッタイト]と争った。

前14世紀、王[31 アメンホテプ4世]はこれまでの信仰を改めるとともに首都をアマルナに移し、こうした動きを背景に[32 アマルナ]美術とよばれる独自の写実的な美術が発展した。

- ①「エジプトはナイルのたまもの」([33 ヘロドトス]=ギリシアの歴史家、の言葉)  
エジプトは必ず同じ時期に増水・氾濫を起こし、沃土を流してくる→これを利用した農業が発達、  
→その時期を[34 太陽]や[35 星]の位置で知ることができる

ナイル川の治水・灌漑の重要性=「洪水の時期を知り、洪水をいかに有効に利用するか」など  
季節を知ることの重要性→天文学や[36 太陽]暦の発展(→[37 ユリウス]暦へ)、  
水を有効に農地に流し込み、排水させる→[38 測地]術の発展(→幾何学の基礎となる)

- ② 村落=[39 ノモス]の成立→[40 治水・共同労働]の必要性から国家統合が進む。

- ③前[41 3000]ごろ統一国家成立、[42 古王国][43 中王国][44 古王国]に分類する

王([45 ファラオ])を神そのものとする専制的な神権政治がおこなわれた。  
→住民の大部分は不自由な身分の農民で46\_\_生産物への租税と無償労働\_\_が課せられる。

※メソポタミアの王は47 最高の神官.....、エジプトの王は48 神そのもの(現人神).....

エジプトの宗教

- [49 太陽]神ラーを最高神とする[50 多神教]。王(ファラオ)も神そのもの(現人神)とされる。
- 人々は51\_\_靈魂の不滅\_\_と[52 死後の世界]を信じる。  
そのため、[53 ミイラ]をつくり、[54 『死者の書』]を残す。  
→死後の裁きを受けるため生前の行いを記録する絵文書

※多神教…人間を取りまく自然などさまざまなところに数え切れないような神が宿っているという考え。  
(ヒンドゥー教・道教・ギリシア神話・神道など)

一神教…唯一絶対で万能の神がすべての世界を動かしているという形の宗教  
(ユダヤ教・キリスト教・イスラム教など)

- ④古王国(第1~第10王朝 前28世紀~前2050)=[55 ピラミッド]の時代  
首都[56 メンフィス](カイロ郊外、下エジプト)=ピラミッドや[57 スフィンクス]の建造  
※[58 クフ]王(前28世紀)のものが最大  
※ピラミッド建設の理由は? 59 ナイル川の洪水の時期に人々に仕事を与える目的も.....

- ⑤中王国(第11~17王朝 前2050~前1570) 首都[60 テーベ](ナイル上流=上エジプト)  
[61 ヒクソス]人(西アジアの遊牧民)の侵入(前17世紀)=15~17王朝をたてる

- ⑥エジプト新王国(第18~26王朝 前1570~前525) 首都[62 テーベ]  
[63 ヒクソス]人を撃退して成立→[64 東地中海]東地中海=[65 シリア]地方に進出、[66 ヒッタイト]と戦う。  
前15世紀前半 トメス3世→ラムセス2世

- ⑦アメンホテプ4世([67 イクナートン])の改革  
→従来の多神教の信仰(とくに[68 アモン=ラー]信仰)をすてアテン[69 一神]信仰を強制  
太陽神ラー信仰と首都テーベの守護神アモン信仰が結合したもの  
→首都をテーベから、[70 テル=エル=アマルナ]に移す。

アマルナ美術… 前14世紀、エジプト新王国の[71 イクナートン]のもと、新たな都テル=エル=アマルナを中心に発展したこれまでの伝統をうち破った独自の[72 写実]な美術。彼の跡を継いだ[73 トゥタンカーメン]王の遺物などにその影響がみられる。

- ⑧独自の絵文字の発達=[74 ヒエログリフ](神聖文字、碑文や墓室などに記す)  
→のち民用文字(デモティック、[75 パピルス]に記す)なども発達  
papyrusナイル川に生えるアシで作った「紙」  
※ナポレオンの遠征で発見された[76 ロゼッタ石]を[77 シャンポリオン](仏)が解読に成功